

2024年9月25日策定

松本大学 ICT 活用推進計画

松本大学学長 清水 一彦

質の高い教育環境を構築し、社会に求められる人材育成を実現するため、教育現場における ICT 活用を一層推進すべく、以下の通り計画を策定するものとする。

1. ICT 環境整備

(1) 松本大学ポータルサイトの活用

2023年度に学生用ポータルサイトを刷新した。これにより、学生がより詳細に自らの学修状況や成果を確認できる環境が整備されるとともに、学生と教職員間の情報のやり取りも円滑になった。質の高い教育環境を実現するための基盤として、さらなる活用を推進していく。

(2) 学内ネットワーク環境の充実

授業や学生活動における通信需要は今後さらに増加する見込みである。2022年度には、より高速で信頼性の高い通信を実現するため、インターネット接続回線を商用ネットワークから学術情報ネットワーク（SINET）へ切り替え、WAN側の高速化と安定化を図った。今後は、経年劣化している機器の更新、棟間ネットワークの高速化や冗長化、Wi-Fiアクセスポイントの設置場所の見直しなど、学内ネットワーク環境の改善を進める。

(3) DX化の推進とAIモデル活用による学生支援

各部門でのDX化を推奨し、申請や手続きの効率化を図る。これにより、学生は時間や場所に縛られない柔軟な対応が可能となり、教職員も業務の効率が向上する。併せて、AIモデルを導入し、学生が必要な情報を適切に活用できるよう支援を強化する。ただし、対面教育の重要性も考慮し、バランスの取れた対応を検討する。

(4) ICT教育の推進とBYODへの対応

ICT教育を推進し、学生や教職員が高度な情報活用能力を身につけることで、学習や業務の効率化を図る。さらに、BYODに対応した柔軟な授業や研究活動を実現するた

めの環境整備を行い、全員が快適に利用できる運用ルールを構築し、その普及を進める。これにより、学びと仕事の質を一層向上させることを目指す。

2. 教職員を対象とした技術支援・教育支援体制の整備

(1) ICT ヘルプデスクの強化

教職員の ICT 教育活動を円滑に進めるため、松本大学情報センターを窓口としたヘルプデスク業務を強化する。デバイス活用支援や各種クラウドサービスの利用相談など、多様化する ICT 環境に対応するため、センター職員の情報活用能力を向上させる。

(2) FD・SD の実施

(1) の学習効果については、学内で共有し活用するために、定期的な FD・SD を実施する。

(3) ID 管理システムの導入による利便性向上

様々なシステムやサービスを利用している教育現場において、ID 管理が重要となっている。利用者が複数の ID やパスワードを覚える必要があり、利便性に課題が生じていると共に、クラウドサービスの普及やサイバー攻撃の多様化により情報漏えいのリスクが高まっている。これに対応するため、ID 管理システムの導入を推進し、学習や業務に専念しやすく、効率的で安全な ICT 環境を構築することを目指す。

3. 情報セキュリティ及びインシデントへの対応

(1) 学校法人松商学園情報セキュリティポリシーの遵守

松本大学の運営母体である学校法人松商学園の情報セキュリティポリシーを厳守する。教職員はもとより、学生に対してもポリシーの徹底周知を図り、遵守を強化する。これに対応するため、松本大学 CSIRT 及び学園統括 CSIRT 体制と連携し、管理体制を整備する。

(2) 松本大学サイバーセキュリティ対策基本計画の実施

「学校法人松商学園情報セキュリティポリシー」に加え、大学独自の基本方針として「松本大学における情報資産保護に関する内規」および「松本大学パソコン管理・個人情報漏えい対策ガイドライン」を策定し、遵守を徹底する。

(3) 情報セキュリティインシデント対策の訓練・研修の実施

インシデントの未然防止を目的として、全教職員を対象に各種訓練や研修などを実施する。悪意ある第三者からの攻撃対策や業務上のヒューマンエラー対策について、具体的な事例を通じてセキュリティリテラシー向上に努める。